

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月4日

上場会社名 株式会社 ジー・モード

上場取引所 JQ

コード番号 2333 URL <http://www.G-mode.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 宮路 武

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 善村 賢治

TEL 03-5456-3780

四半期報告書提出予定日 平成22年2月9日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	3,683	7.4	△47	—	△28	—	△27	—
21年3月期第3四半期	3,428	—	△466	—	△357	—	△1,855	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△241.43	—
21年3月期第3四半期	△16,393.76	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	4,432	3,855	86.8	34,010.68
21年3月期	4,656	3,908	83.8	34,478.84

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 3,849百万円 21年3月期 3,902百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,355	13.9	6	—	29	—	15	—	132.53

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 113,183株 21年3月期 113,183株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 一株 21年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 113,183株 21年3月期第3四半期 113,183株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年5月7日に公表いたしました連結業績予想は、本資料において修正しておりません。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

#### (1) 業績の概況

当第3四半期連結会計期間における国内携帯電話市場は、長引く景気低迷に伴い、端末買替え需要の回復が遅れたことや端末機能の進化が停滞していることなどから、端末販売が振るわず、「冬の時代」が続いております。こうした状況の中、普及価格帯端末における性能の底上げや商品力の向上に加え、オープンOSを搭載したスマートフォンの投入などにより、乗り換えユーザーの獲得と携帯端末の2台目需要開拓に向けて、キャリア各社の動きが活発化しております。

また、新規事業者やMVNO（仮想通信事業者）参入により、サービスの多様化と料金競争が本格化する中、3Gの次世代規格LTE（Long Term Evolution）の商用サービス開始に向けて、今後、事業者間におけるワイヤレス・ブロードバンド競争に一層拍車がかかるものと思われれます。

一方、モバイルコンテンツ市場におきましては、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）によるプラットフォームのオープン化とソーシャルゲームの浸透、スマートフォン向けマーケットの誕生などにより、コンテンツやアプリケーションの流通形態は、キャリアや携帯端末機能に依存した従来のサービス様式から、キャリアを介さない新たなプラットフォームによるサービス展開へと変貌を遂げつつあります。

このような経営環境の下、当社企業グループは国内事業本部における安定的収益の確保と利益率の改善に向けて、集客力の強化やユーザー導線の拡張、退会率の抑止に努めるとともに、アプリ開発コストや外注コストの削減に注力いたしました。また、オープンソーシャル対応アプリの提供を開始し、コミュニケーション型課金モデルを導入するなど、新たな事業展開に向けた取組みにも着手いたしました。カジュアルコミュニケーション事業本部においては、基本料金無料によるポイント課金型ビジネスモデルを導入し、潜在ユーザーの開拓と利用単価向上による売上高拡大に注力するとともに、オープンプラットフォームサービスへの対応を強化することで、国内外における販路拡大に努めました。

なお、当社企業グループにおける事業の種類別セグメントの概況は以下のとおりであります。

#### ①国内コンテンツ配信事業

当社企業グループの主力事業である国内コンテンツ配信事業の概況は以下の通りです。総合サイトのテトリス&Getプチャアプリにおきましては、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ（以下、「NTTドコモ」という。）の入会数が伸び悩み四半期ごとの売上が減少傾向にある中、株式会社ソフトバンクモバイル（以下、「ソフトバンクモバイル」という。）のYahoo!ケータイ向け配信が好調であったことに加え、KDDI株式会社（以下、「KDDI」という。）のEZweb向け会員が拡大したことにより、売上をカバーし、3四半期連続の増収となりました。また、「TETRIS(テトリス)」に次ぐ世界最大規模のカジュアルゲームといわれる「Bejeweled(ビジュエルド)」の国内におけるモバイル向けライセンスを独占的に取得するなど、世界的にも著名なゲームのバリエーションを増やし、多くの人に楽しんでいただけるようサービスの向上に努めてまいりました。

また、専門サイトにおきましては、3キャリアで展開する対戦系専門サイト「対戦ぐるじゃむ」で、「TETRIS LEAGUE (テトリスリーグ)」がサービス開始から約1年で1億対戦に近づくなど、引き続き好調に推移しており、売上拡大に寄与いたしました。さらに、パズル系専門サイト「アタマスイッチ！」では12月にKDDI向けのサービスを開始し、NTTドコモのパズルサイトの名称も統一することにより、3キャリアによる展開を完了いたしました。スポーツ系の専門サイト「Get!!Sports」では、追加課金モデルを取り入れた「ケイバモノガタリG2010」が好調で、売上拡大に寄与しており、今後におけるサービス拡大に向けて重要なコンテンツとなりました。

この結果、本事業セグメントの売上高は1,180百万円となり、前年同期比7.2%の増加となりました。

#### ②カジュアルコミュニケーション事業

カジュアルコミュニケーション事業におきましては、基本料金無料の総合ゲームサイト「ゲームバイキング」を3キャリアで立ち上げました。また、複合エンタメ・コミュニティサービス「わいわいサービス」では、女性向けコミュニティゲームサイト「戦国☆パラダイス」においてウェブマネーによる課金を開始するとともに、アフィリエイト広告による収益モデルを導入するなど、サービスの拡充と事業収益力の強化に取り組ましました。

この結果、本事業セグメントの売上高は「Wii(R)」のゲームダウンロードサービス「WiiウェアTM」向け配信や公式電子コミックサイトによる売上も含め、20百万円となり、前年同期に比べ19百万円増加しました。

### ③海外事業

海外事業におきましては、オープンプラットフォームへの対応強化に向け、株式会社アプリックスが提供するiアプリ自動変換ツール「MGD (Mobile Game Deployer)」を利用し、「Windows Marketplace for Mobile」向けに「マジカルドロップDX」を含む3タイトルを配信いたしました。

また、iPhone向けに配信中の「マジカルドロップTouch」はiTunes Storeランキングのパズルカテゴリーで1位、有料コンテンツ総合でも上位にランクインするなど、売上に貢献いたしました。

この結果、本事業セグメントの売上高は23百万円となり、前年同期比48.2%の増加となりました。

### ④その他の事業

その他の事業におきましては、開発受託案件に加え、人気の「空気読み。DS」や「鳥魂(とりだま)チキン度診断」、新作オリジナルゲーム「カタヌキ」などのニンテンドーDSiウェアTM向けゲーム配信や株式会社アコースティックの動画ソフトウェア (movie4U) などのライセンスビジネスなどが売上に寄与いたしました。また、株式会社ミクシィが運営する「mixiアプリモバイル」に「Gモード みんなのミクゲー」を開設し、オープンソーシャル対応アプリの提供を開始するとともに、コミュニケーション型課金システムを導入するなど、新たな収益基盤の構築に向けて本格的に始動いたしました。

この結果、本事業セグメントの売上高は43百万円となり、前年同期比193.2%の増加となりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は1,267百万円となり、前年同期比12.0%の増加となりました。損益面におきましては、当期製造原価が増加しましたが売上を伸ばしたことにより赤字幅が縮小し営業損失は前年同期比62.3%減の69百万円となりました。また、受取利息を計上したことなどにより、経常損失は64百万円、四半期純損失は65百万円となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る連結経営成績に関する定性的情報については、平成22年3月期第1四半期決算短信(平成21年8月6日開示)及び平成22年3月期第2四半期決算短信(平成21年11月5日開示)をご参照ください。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産、負債及び純資産の状況

#### ① 資産

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末より224百万円減少(前期末比4.8%減)し、4,432百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より332百万円増加(前期末比8.9%増)し、4,079百万円となりました。主な要因は現金及び預金の減少50百万円、受取手形及び売掛金の減少38百万円、回収期日が1年以内となった科目振替による1年内回収予定の長期貸付金の増加477百万円、その他の構成科目である前渡金の減少22百万円、為替予約の減少32百万円であります。固定資産は、前連結会計年度末より557百万円減少(前期末比61.2%減)し、353百万円となりました。主な要因は有形固定資産の取得による増加87百万円、有形固定資産及び無形固定資産の償却による減少38百万円、回収期日が1年以内となった科目振替による長期貸付金の減少477百万円、投資その他の資産のその他の構成科目である敷金の減少108百万円であります。

#### ② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末より171百万円減少(前期末比22.9%減)し、576百万円となりました。主な要因は支払手形及び買掛金の減少58百万円、事業構造改革引当金の減少64百万円、その他の構成科目である未払金の減少56百万円であります。

#### ③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より52百万円減少(前期末比1.3%減)し、3,855百万円となりました。主な要因は四半期純損失の計上による利益剰余金の減少27百万円、繰延ヘッジ損益の減少24百万円であります。なお、繰越利益剰余金の欠損補填を目的として資本剰余金2,427百万円を利益剰余金へ振替えております。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資産」という。）は1,987百万円（前年同期末2,131百万円）となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は以下のとおりであります。

### ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、81百万円の資金使用（前年同期191百万円の資金使用）となりました。主な要因は減価償却費の計上38百万円、事業構造改革引当金の減少額64百万円、未払金の減少額52百万円であります。

### ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、31百万円の資金獲得（前年同期11百万円の資金使用）となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出89百万円、敷金の差入による支出60百万円、敷金の回収による収入162百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入16百万円であります。

### ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、支出した資金については、重要なものではありません。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、平成21年5月7日の公表値から変更ありません。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

一部簡便な会計処理を適用しておりますが、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,004,475	2,054,479
受取手形及び売掛金	1,283,843	1,322,828
商品及び製品	7,493	—
仕掛品	151,270	118,410
原材料及び貯蔵品	41	7,777
未取還付法人税等	914	4,540
繰延税金資産	4,679	824
1年内回収予定の長期貸付金	477,000	—
その他	159,977	244,608
貸倒引当金	△10,624	△7,009
流動資産合計	4,079,072	3,746,460
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	77,751	4,485
工具、器具及び備品（純額）	21,361	28,329
有形固定資産合計	99,113	32,815
無形固定資産		
のれん	59,980	67,804
その他	31,614	48,599
無形固定資産合計	91,595	116,403
投資その他の資産		
投資有価証券	33,623	37,730
長期貸付金	—	477,000
破産更生債権等	1,493,481	1,495,000
繰延税金資産	3,268	1,611
その他	125,775	243,311
貸倒引当金	△1,493,481	△1,493,481
投資その他の資産合計	162,666	761,171
固定資産合計	353,375	910,389
資産合計	4,432,447	4,656,850

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	241,542	300,002
未払法人税等	10,366	8,943
賞与引当金	5,400	—
繰延税金負債	2,037	15,319
事業構造改革引当金	—	64,867
その他	317,582	356,024
流動負債合計	576,929	745,158
固定負債		
繰延税金負債	—	3,459
固定負債合計	—	3,459
負債合計	576,929	748,617
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,320,723	3,320,723
資本剰余金	551,066	2,978,396
利益剰余金	△22,808	△2,422,812
株主資本合計	3,848,982	3,876,307
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,522	△1,261
繰延ヘッジ損益	2,970	27,372
評価・換算差額等合計	448	26,111
少数株主持分	6,087	5,813
純資産合計	3,855,517	3,908,232
負債純資産合計	4,432,447	4,656,850

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	3,428,856	3,683,977
売上原価	2,423,551	2,262,889
売上総利益	1,005,305	1,421,087
販売費及び一般管理費	1,471,764	1,468,288
営業損失(△)	△466,458	△47,200
営業外収益		
受取利息	103,316	16,841
その他	10,214	3,153
営業外収益合計	113,530	19,995
営業外費用		
持分法による投資損失	2,902	—
為替差損	1,963	868
投資事業組合運用損	—	844
営業外費用合計	4,866	1,712
経常損失(△)	△357,793	△28,918
特別利益		
関係会社株式売却益	—	8,189
特別利益合計	—	8,189
特別損失		
固定資産除却損	254	82
貸倒引当金繰入額	1,495,000	—
和解金	750	—
特別損失合計	1,496,004	82
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,853,798	△20,810
法人税、住民税及び事業税	14,223	11,752
法人税等調整額	△13,065	△5,511
法人税等合計	1,158	6,240
少数株主利益	538	273
四半期純損失(△)	△1,855,495	△27,325

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1,132,176	1,267,784
売上原価	827,884	852,768
売上総利益	304,292	415,016
販売費及び一般管理費	488,874	484,527
営業損失(△)	△184,581	△69,510
営業外収益		
受取利息	34,416	5,350
その他	530	—
営業外収益合計	34,946	5,350
営業外費用		
持分法による投資損失	6,313	—
為替差損	3,327	25
その他	—	15
営業外費用合計	9,640	40
経常損失(△)	△159,275	△64,201
特別利益		
貸倒引当金戻入額	92	—
特別利益合計	92	—
特別損失		
貸倒引当金繰入額	1,495,000	—
特別損失合計	1,495,000	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,654,183	△64,201
法人税、住民税及び事業税	2,938	5,469
法人税等調整額	△2,327	△4,269
法人税等合計	610	1,199
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△18	33
四半期純損失(△)	△1,654,775	△65,434

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,853,798	△20,810
減価償却費	43,632	38,531
のれん償却額	10,762	7,823
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,494,516	3,615
賞与引当金の増減額(△は減少)	6,900	5,400
事業構造改革引当金の増減額(△は減少)	—	△64,867
受取利息及び受取配当金	△103,316	△16,841
為替差損益(△は益)	1,897	299
持分法による投資損益(△は益)	2,902	—
投資事業組合運用損益(△は益)	—	844
固定資産除却損	254	82
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△8,189
和解金	750	—
売上債権の増減額(△は増加)	39,858	5,245
たな卸資産の増減額(△は増加)	99,030	△33,586
前渡金の増減額(△は増加)	△122,658	22,576
仕入債務の増減額(△は減少)	△49,373	△38,548
未払金の増減額(△は減少)	△21,828	△52,861
その他	1,427	62,214
小計	△449,041	△89,073
利息及び配当金の受取額	108,232	22,079
和解金の支払額	△750	—
法人税等の還付額	189,276	4,632
法人税等の支払額	△39,518	△19,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	△191,800	△81,587
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△100,800	△800
定期預金の払戻による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△2,329	△89,585
無形固定資産の取得による支出	△19,889	△203
敷金の差入による支出	—	△60,621
敷金の回収による収入	—	162,602
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	8,056	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	16,341
その他	3,858	3,519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,104	31,253
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△471	△170
財務活動によるキャッシュ・フロー	△471	△170
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,897	△299
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△205,273	△50,803
現金及び現金同等物の期首残高	2,336,565	2,037,911
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,131,292	1,987,108

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	国内コンテンツ配信事業 (千円)	カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	海外事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,100,650	811	15,956	14,758	1,132,176	—	1,132,176
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,100,650	811	15,956	14,758	1,132,176	—	1,132,176
営業利益又は営業損失 (△)	145,650	△124,526	△10,424	515	11,215	(195,797)	△184,581

当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	国内コンテンツ配信事業 (千円)	カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	海外事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,180,217	20,644	23,651	43,271	1,267,784	—	1,267,784
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	140	140	(140)	—
計	1,180,217	20,644	23,651	43,411	1,267,924	(140)	1,267,784
営業利益又は営業損失 (△)	326,017	△216,691	4,925	△17,865	96,386	(165,897)	△69,510

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	国内コンテンツ配信事業 (千円)	カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	海外事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	3,291,613	5,955	68,721	62,566	3,428,856	—	3,428,856
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	4,365	4,365	(4,365)	—
計	3,291,613	5,955	68,721	66,931	3,433,221	(4,365)	3,428,856
営業利益又は営業損失 (△)	472,405	△311,981	△32,545	12,834	140,713	(607,171)	△466,458

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	国内コンテンツ配信事業 (千円)	カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	海外事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	3,494,438	31,871	46,879	110,788	3,683,977	—	3,683,977
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	980	980	(980)	—
計	3,494,438	31,871	46,879	111,768	3,684,957	(980)	3,683,977
営業利益又は営業損失 (△)	886,091	△379,227	△6,558	△23,704	476,600	(△523,801)	△47,200

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、サービスの系列性、市場の類似性等を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
国内コンテンツ配信事業	携帯電話向けゲームコンテンツ及び着メロの企画・開発・運営
カジュアルコミュニケーション事業	携帯電話一般サイトや各種メディアデバイス等を利用したインターネットカジュアルコミュニティサービスの企画・開発・運営
海外事業	携帯電話向けゲームコンテンツの配信及びライセンス供与等
その他の事業	携帯電話向けゲームコンテンツ、動画配信ツール及び着メロ制作ツールのライセンス供与等

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）並びに前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結会計期間（自平成20年10月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）並びに前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日至平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年12月31日）海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成21年5月21日の取締役会決議に基づき、繰越利益剰余金の欠損填補を目的として資本剰余金2,427,330千円を利益剰余金に振替えております。

## 6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
国内コンテンツ配信事業 (千円)	149,490	67.2
カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	110,547	363.1
海外事業 (千円)	5,609	57.6
その他の事業 (千円)	30,000	357.2
合計 (千円)	295,649	109.1

- (注) 1. 金額は、当期製品製造原価によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注実績

当社企業グループは、一部受注生産を行っておりますが、販売実績に占める受注販売実績割合の重要性が乏しいため記載を省略しております。

### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	前年同四半期比 (%)
国内コンテンツ配信事業 (千円)	1,180,217	107.2
カジュアルコミュニケーション事業 (千円)	20,644	2,545.0
海外事業 (千円)	23,651	148.2
その他の事業 (千円)	43,271	293.2
合計 (千円)	1,267,784	112.0

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

なお、NTTドコモ、KDDI及びソフトバンクモバイルに対する販売実績は、当社企業グループがNTTドコモのiモード、KDDIのEZweb及びソフトバンクモバイルのYahoo!ケータイを介して行う有料情報サービスの利用者（一般ユーザー）に対する情報料の総額であります。

相手先	前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
NTTドコモ	714,057	63.1	763,415	60.2
KDDI	226,431	20.0	261,043	20.6
ソフトバンクモバイル	90,180	8.0	103,060	8.1

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。